

ヘマラートで更なる飛躍を目指す企業

Hitachi Transport System Vantec (Thailand), Ltd.

総合物流業



あらゆる物流の最適化をご提案 拡大するタイのEC事業も照準

日立トランスポートシステム・バンテック・タイランドは日本の物流大手「日立物流」のタイにおける現地法人です。モノづくりの「日立製作所」がグループの母体となっているだけあって工場設備や物資、製品を送り届けるという荷主側の立場に立ったための細かいサービスを得意としています。

海外展開としては1976年シンガポールに初めての現地法人を設立しました。タイ進出は1989年で2016年からはクロスボーダー混載輸送サービスもスタート。ペトナム、ミャンマーなどの現地子会社との連携による事業拡大など成長する東南アジア市場を重要な戦略拠点と位置づけています。

当社の事業は大きく3つに分かれます。一つ目が「重量機工事」。1950年の創業期から手がけている中核事業で発電所や各種プラントなどの搬送から据え付けまで難度高い輸送を取り扱っています。豊富で多層的なノウハウと最新鋭の特殊機材を使用し安全確実にお客様の元にお届けしています。

二つ目が「フレイトフォワードینگ事業」です。航空輸送、海上輸送、クロスボーダー輸送と現代の物流は複雑を極めており困難な国際輸送も求められています。当社は世界各地に巨大なグローバルネットワークを構築しておりその拠点はパートナー企業など約100社計400拠点に上ります。こうしたネットワークをフル稼働して通関や法規制対応に至るまで総合的なサービスを日本語で提供しています。

最後に紹介するのが物流全体の最適化・効率化を実現するための「サードパーティロジスティクス事業」(3PL)です。現代の物流は倉庫での保管から輸送、荷役、輸出入、物流コンサルティングに至るまでそのニーズ、サービスは実に多岐にわたります。ところが全ての荷主様があらゆる業務部門を社内にも備えているとは限りません。また、そうともなると膨大なコストを負担しなくてはならなくなります。

そこで昨今ビジネスの世界で注目されるようになってきたのが3PLなのです。企業が社が業務としてかかえる物流部門について、第三者企業に委託するという業務形態を指します。これにより、委託企業は持ちうるリソースを効率よく他の主要業務に割り振ることができ、一方、受託する企業は持ちうるノウハウによって倉庫の配置から輸送方法、サプライチェーンの構築まであらゆる物流の最適化を提案することができるようになりました。

タイの市場は消費が拡大しておりそれに伴う物流も進歩を続けています。中でも当社が注目するのがEC(電子商取引)市場です。ある統計では年間13%も成長しているといふ企業各社も魅力ある市場で勝ち残るために優良な物流を求めています。当社は自前では倉庫を借りられないあるいは配送手段を持たない企業などに対し最適な提案を行ってこの流れを支えていく考えです。自社サイトを使うなどした非モル型のEC市場の需要を見込んでいます。

一方でタイは日本と同様に労働人口が減少を始めており働き手の不足は物流業界でも深刻な課題となっています。そこで当社は省人化の技術を開発し、いち早くロボット化や自動化を進めていきたいと考えています。市場の変化を汲むことで新たな物流の需要に



も応えていきます。

2012年に本社を移転した際お世話になったのがWHAグループです。当社の拠点戦略に合ったご提案をいただきその親切丁寧な姿勢にも好感が持ってお取引を始めました。物流業はある意味で特殊な業界です。その特殊性を適切に把握されアドバイスをいただいたことに感謝しています。

ラムルッカにある当社物流センターをめぐるには屋上にソーラーパネルを設置するご提案をいただきました。トラックを使う物流企業にとって地球環境問題は避けて通れない重要な課題です。会社としての環境保護指針もあります。こうした中で省電力化は当社にとっても願ってもない申し出となりまして、おかげさまでタイ社会の一員として大切な職責を果たすことができました。

Iharanikkei Chemical (Thailand) Co., Ltd.

繊維原料など化学製品の製造販売



海外初の工場をWHAイースタン工業団地に開設 2年後に第2工場の稼働も目指す

J A系の化学薬品メーカー「クミアイ化学工業」(東京)傘下の化学製品製造販売業「イハラニケイ化学株式会社」は1979年、静岡県清水市(現静岡市清水区)で誕生しました。殺菌剤や除草剤などの農薬生産と高分子素材であるアラミド繊維原料の製造および販売を2つの大きな事業の柱としています。その子会社として2016年にタイで設立されたのが当社で、このたびグループ海外初となる工場を東部ラヨーン県のWHAイースタン工業団地マブタブット(旧名ヘマラートイースタン工業団地)に開設しました。

全敷地面積は11ライ(1ライ=11600㎡)。ここです、年間40000トンのアラミド繊維原料イソフタル酸クロリド(IPC)の生産が可能な第1工場を18年9月に稼働させました。生産された約半量をタイ国内の日系アラミド繊維メーカーに納めるほか、残りを欧米市場などに出荷する予定です。2年後の20年末を目標に第2工場を操業させる計画で、こちらは同じアラミド繊維原料のテレフタル酸クロリド(TPC)40000トン(年間)を製造する事業計画を立てています。

アラミド繊維は60年代に開発されたスーパー繊維の一つで、強度や耐久性、衝撃吸収性に優れ、それだけで軽量なため扱いが簡単なことで知られています。また、通電性を持たずに磁化もせず電波を通過させるので、電流や磁界の影響を受けやすい構造物でも使用可能なほか、電波の反射による悪影響を受けず済むことができます。こうした優れた特性から防火服、防火カーテン、防弾チョッキ、ヘルメット、海底ケーブル、タイヤの補強材、プリント基板など幅広い分野で活用がなされ、今後もさらなる応用

が期待されています。

タイをハブとした陸アセアンには自動車や電気を中心に多彩多様な産業が集積し、道路や鉄道などの陸路でつながっています。こうした地政学的な特徴から今後も周辺国と一体となった高い成長が見込まれています。タイ政府も精密機器や医療・化学といった高付加価値産業の育成に力を入れており、ファイナケミカル(精製された純度の高い化学原料)などの素材市場にも強い関心を持っています。このような背景の中での当社タイ工場の操業開始となりました。山梨了志社長は「タイ工場をアジアにおける当社化成品事業の重要拠点としていきたい」と話しています。

世界のファイナケミカル市場は今、空前の活況に沸いています。これまで有力なファイナケミカルの供給元だった中国で化学規制が強化され、6割もの中国企業が操業停止を余儀なくされたのです。化学製品の生産には多量の水を必要としており、環境保護の観点から十分な排水施設を持たないこれら中国企業が問題とされました。このまま再開できずに廃業となる可能性が高く、それを見越した世界中の化学メーカーからの引き合いが当社などの素材メーカーに寄せられているのです。

当社グループの売上高は18年見込みで約75億円。3年後には100億円を超える見通しです。売上高に占める海外分は近年50%を超えて推移していたところ、18年見込みでは48%程度まで下がるとなっています。日本国内市場が好調な今だからこそアジアに重要拠点を構える絶好の機会と言いうことができてでしょう。タイ工場のあるラヨーン県マブタブットは、石油化学コンビナートが立ち並びタイでも有数の

石化産業の中心地です。原料の現地調達も問題なく可能で、進出に迷いはなかったそうです。タイ工場建設にあたっては、WHAイースタン・リアル・デベロップメント株式会社と全面協力しました。イースタン工業団地マブタブットは港湾施設に近いという立地を活かしており、石化事業を展開するためのインフラが十分に整っています。地盤も強固で、水の品質が良いことも知られています。主要道とのアクセスも良く、ワーカーの雇用にも困りません。当社を含め多くの人居企業から喜ばれています。

「施設も申し分なかったですが、それ以上にWHA側のスタッフに親身になっていただいたことに感謝です」と話すのは現地に駐在してタイ法人を率いていく金子敏明ダイレクターです。日本語での対応、スムーズな建築許可申請、現地住民向け説明会の実施などを例に挙げました。「安心して仕事に集中できたことが何よりも一番。これからはお世話になりました」と感想を語っています。

